

基本目標	施策の方向性	主な取組	事業数	所管評価				進行管理(令和7年度)	No.
				A評価	B評価	C評価	評価なし		
1. 男女共同参画社会の実現に向けた教育・啓発	(1)家庭・地域へ向けての取組	①男女共同参画センターを中心とした取組	1	1	0	0	0	オンラインの活用や、市民・庁内他課との協働・共催により、男女共同参画に関するテーマの講座等を実施した結果、講座の参加人数は延べ675人となり、目標の500人を達成することができた。防災総合訓練では、チラシ配布を通して、男女共同参画の視点からの防災について啓発を行うことができた。また、職員向けの研修では、避難所開設で必要な男女共同参画に関する視点について啓発できた。引き続き、関係課と連携し、効果的な啓発方法を検討していく必要がある。	1
		②防災・減災への取組	2	1	1	0	0		2・3
	(2)市職員への啓発や学校園等での学習	①市職員の意識醸成【重点取組】	4	4	0	0	0	男性職員への育児休業制度の説明、教職員向けに校務支援システムを活用した情報発信、及び、市管理職や教職員を対象とした働きやすい職場づくりの研修等、周知啓発を行う機会を多く持つことができた。引き続き、研修や啓発資料の配布を行いながら、働きやすい職場環境と気軽に相談できる体制づくりを行う。	4～7
		②多様な選択を可能とする学校園等での学習機会の提供	2	2	0	0	0		8・9
	小 計		9	8	1	0	0		
2. 安心して生活できる環境の整備	(1)生涯を通じた心身の健康づくりの促進	①年齢に応じた性教育の充実	2	2	0	0	0	性教育、健康づくりに関する講座を関係課間で連携して実施できた。庁内関係課や包括連携先企業と協働で健康づくりの意識向上のための周知を図ったが、より幅広い年齢層への啓発が課題である。引き続き効果的な周知方法を検討しながら実施していく。悩み相談事業では、各課で相談者に寄り添った支援を行い、必要に応じて相談先の情報提供や連携を行った。必要な方へ情報が届くよう、相談事業の周知を市民及び関係課へ継続して行う。	10・11
		②ライフステージに応じた健康づくり	3	3	0	0	0		12～14
		③悩み相談事業	4	4	0	0	0		15～18
	(2)あらゆる暴力の根絶 ※第3次芦屋市DV対策基本計画	①DV被害者支援	14	14	0	0	0	神戸女学院大学の学生と協力して作成したデートDV防止啓発パンフレットの配布や中学生への出張授業により、デートDV防止の啓発を行った。DV被害者支援では、DV相談室と関係機関で連携し、DV被害者が安全で安心した生活を送れるよう、必要に応じた情報提供や支援を行った。 庁内職員に対しては、DVについての理解を深められるよう関係機関を含む窓口職員を対象とした研修を実施した。引き続き、周知カードやシールを活用し、DV相談室や女性サポート相談室の認知度の向上に努める。	19～32
		②DVと性暴力防止のための取組【重点取組】	2	2	0	0	0		33・34
	小 計		25	25	0	0	0		
3. 女性の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進 ※第3次芦屋市女性活躍推進計画	(1)女性へのエンパワメント推進	①女性が望む活躍への支援	2	2	0	0	0	女性のための起業支援や、男性の家事・育児への関わりを増やすための講座等、幅広いテーマで女性活躍推進事業を実施し、女性が望む活躍への支援を行った。令和7年4月1日における市附属機関等における女性委員割合は40.8%で、昨年度の39.5%から増加し、令和9年度目標に達した。引き続き、庁内の電子掲示板等で繰り返し女性委員の積極的な登用について周知するとともに、達成できていない部署には、個別に見直しを図るよう求める。	35・36
		②性別役割の偏り解消のための取組	3	3	0	0	0		37～39
	(2)ワーク・ライフ・バランス実現のための支援	①子育て・介護等の支援	6	6	0	0	0	子育てアプリを活用するなどして、対象世帯に有益な情報提供をすることができた。高齢者の支援については、各地域の高齢者総合相談窓口で、本人や家族の支援を行った。男性の家庭生活での活躍推進のための講座・事業も実施し、参加者からは好評で、事業に参加する父親同士の交流も継続的に促すことができた。働き方改革の推進では、職員向けの業務改善やハラスメントに関する研修のほか、商工会や兵庫県、地域経済振興課等と共催にてワーク・ライフ・バランスの促進啓発に取り組んだ。	40～45
		②男性の家庭生活での活躍推進【重点取組】	1	1	0	0	0		46
		③働き方改革の推進	5	4	1	0	0		47～51
	小 計		17	16	1	0	0		
合 計			51	49	2	0	0		

【評価基準】
A評価(A)…目標を達成できたもの
B評価(B)…目標は達成していないが、目標に対して進捗があったもの又は事業等を実施したもの
C評価(C)…目標を達成しておらず、目標に対して進捗がみられないもの又は事業等を実施しなかったもの
評価なし(－)…事業等を実施する必要がなかったものなどA～Cに該当しないもの